たうんとぴっくす

まちの話題や出来事を紹介します

▲背後の山が車山。二つの峰が車輪に見えることから名付けられたとも言われています。

本番に向けて「のろし」の練習

9月23日に開催する「戦国尼子フェスティバル」ではイベント当日、飯梨地区の皆さんが「車山」の山頂から「のろし」を上げます。この本番に向けた練習が9月2日、飯梨交流センター駐車場で行われました。

車山（標高207 m）は出雲国風土記に登場し、連絡所として古代にのろし台が置かれた山。イベントを盛り上げるとともに、多くの人に車山のことを知ってもらおうと計画されました。

ドラム缶をつないだ台に薪が点火され、その上からヒノキ葉を投入。しばらくすると白い煙が勢いよく立ち上りました。

井尻八朔祭りの花火（8月29日）。万灯籠の灯りと花火のコラボレーションは、秋の訪れを告げる安来の風物詩。花火の上には星空が広がり、贅沢な光の三重奏です。

今月の一枚

◀安心感を持ってもらうために声をかけてから「車イス」は動かします。

ボランティア団体の活動を紹介

市内のボランティア団体が活動内容を紹介する「ボランティアフェスタ」が9月2日、安来商工会議所で開催されました。会場には環境やまちづくり、福祉、子育てなどのボランティア活動に取り組む13団体や、盲導犬支援を行う安来十神ライオンズクラブが出展。普段の活動の様子をパネルや展示などで紹介していました。

このうち島根総合福祉専門学校は「ワンポイント介護講座」として、車イスに乗るときや動かす時に気を付けることなどを実物を使いながら説明しました。介護福祉士科2年の小林美香さんは「普段は学生同士で行っていますが、今回は一般の方が見ておられるので皆さんに伝わるように意識して車イスの紹介を行いました」と話していました。

会場では「7月豪雨災害」の県内被災者支援を目的にしたチャリティーバザーが行われました。収益金32,000円は日本赤十字社島根支部を通じて県内の被災地へ寄付する予定です。多くの皆様のご協力ありがとうございました。

▲16日、17日は4町内が集まり四重連を披露しました。

▲愛宕山から撮影した花火。

伝統を受け継ぐ月の輪神事

「エンヤ、エンヤ、デゴデットーヤー」と威勢の良い声。毎年8月14日～17日に行われる月の輪神事では、かけ声に合わせてにぎやかな笛や太鼓などを奏でます。この囃子（はやし）と共に山車（だし）を引きながら、大勢で市街地を中心に練り歩きます。

なじみの音に引き寄せられて、大通りの沿道には多くの見物客が集まり、音の共鳴に耳を傾けていました。

この神事は帰省した人がふるさとを懐かしむ夏の風物詩。飛鳥時代が起源とされ、約1300年の時を経た今でも、伝統の音色は安来の夏に響き続けています。

月の輪神事に合わせて開催した「やすぎ月の輪まつり」。今年も多彩なイベントで会場を盛り上げ、14日は安来港のステージでダンスコンテストなどを開催。また、夜には約6000発の花火を打ち上げ、安来の夜空に彩りを添えました。

地元企業からものづくりを学ぶ

地元企業がどのようなものづくりをしているのかを学ぶ「やすぎ産業体験2018」を8月9日、伯太町内で行いました。参加した4～6年生までの19人は、㈱ファデコと㈱大正屋醤油店を訪問。このうち金属加工等を手掛ける株式会社ファデコでは担当者が「安来で作ったものが海外にも輸出されている」ことを紹介し、「難しいことにも挑戦することを心掛けている」と会社の方針を説明していました。

参加した大西陽介さん（荒島小6年）は「たくさんの機械があったが、そこで働いている人が少なくて驚きました」と話していました。

◀工場内で担当者から説明を受ける参加者。

▲国際色あふれる「どじょうすくい」となりました。

世界の子どもが安来節を体験

松江市で開催された世界少年野球大会の交流行事の一つとして、参加者が8月6日、安来節演芸館を訪れました。

この日は14の国と地域の少年少女や関係者約２００人が演芸館に来場し、安来節の観覧やどじょうすくい踊りを体験。踊りの特徴的な動きには歓声をあげて楽しんでいました。最後に来場者はドジョウの唐揚げを試食して交流行事を終えました。

子どもたちは、安来ドジョウを通して交流を深めた1日となったようです。